

ピュージェット湾の環境ガバナンス

1. はじめに

ピュージェット湾は、米国北西部のワシントン州にある湾であり、その海域はカナダ側のファンデフカ海峡及びジョージア海峡とつながっている。ピュージェット湾の海域面積は2,600km²（瀬戸内海の0.11倍）、流域面積は36,000km²（同0.74倍）、流域人口は約400万人（同0.13倍）である。

ワシントン州には、オリンピック国立公園、ノースカスケード国立公園、マウント・レーニア国立公園などがあり、豊かな自然を誇っている。ピュージェット湾は表面的には美しい自然が保たれているようにみえるが、その生態系は危機に面している。かつて豊かであったシャチ、メバル、鮭や海鳥といった生物が急激に減少するようになったし、水質の溶存酸素の低下によって多くの生物がへい死する事件が発生したり、底質の有害物質濃度が基準値を超えるとといった現象が顕在化してきている。

このような状況の中でワシントン州政府は、これまでも関係機関と連携しながら環境対策を進めてきたが、2007年に体制を強化することとし、ピュージェット湾パートナーシップを設置した。

2. ピュージェット湾パートナーシップの誕生

ピュージェット湾の健康と活力を2020年までに改善させるためどうすればよいか、州政府の諮問を受けた産業界、政府、地域社会のリーダーが2006年12月に提案書を取りまとめた。主な内容は、2020年行動方針の策定、様々な主体による参画・コミュニケーションの促進、新しいガバナンス体制の構築、現在の資金状況及び新しい資金源の検討、科学的成果の取り込みである。

この提案をもとに2007年、州議会においてピュージェット湾パートナーシップの設置などピュージェット湾の環境保全に関する一連の法律が定められた。

3. ピュージェット湾パートナーシップの仕組み

ピュージェット湾パートナーシップはワシントン州の法律 RCW の第 90 編 (Title 90: Water rights — environment) 第 71 章(Chapter 71) である「ピュージェット湾水質保全」の中で規定されている。この条文では次のような事項が定められている。

○認識と意向

- ・ピュージェット湾の環境は急速に損なわれている。特にフッドカナルは重大な危機に陥っている。
- ・一層まとまりのある効果的な方法がとられる必要がある。
- ・ピュージェット湾を修復し保護する取組みを調整・主導するためピュージェット湾パートナーシップを設置する。そして全ての政府機関、民族、市、郡、港、特別区は、同パートナーシップを支持・支援するとともに、同パートナーシップは、戦略的な行動方針を定め、事業の効率的及び効果的な実施を管理する。但し、同パートナーシップは規制権限を持たないものとする。
- ・2020年までにピュージェット湾の健康を回復させることは、州の目標である。

○ピュージェット湾パートナーシップ

- ・州政府の機関（agency）を設置し、ピュージェット湾の環境回復を管理する。
- ・同パートナーシップは、リーダーシップ会議(leadership council)、事務局長 (executive director)、エコシステム調整委員会 (ecosystem coordination board)、ピュージェット湾科学委員会 (Puget Sound science panel) で構成する。
- リーダーシップ会議の構成メンバー
 - ・上院のアドバイスと承認のもとに知事が任命する。（7名）
- リーダーシップ会議の権限と義務
 - ・行動指針の採択や改訂、資金の配分、進捗報告などについてリーダーシップを発揮し、責任を負う。
 - ・リーダーシップ会議は既存の機関や全てのレベルの政府と密接な連絡をとって業務を行う。
- 事務局長の任命と職務権限
 - ・事務局長は知事によって任命される。
 - ・事務局長は州政府職員であるスタッフを雇用する。
- エコシステム調整委員会の構成メンバーと義務
 - ・エコシステム調整委員会は、行動指針で定める各活動地域から1名、産業界から2名、環境の側から2名、部族政府から3名、各郡・市等から1名、州政府から3名、連邦政府から3名で構成する。
 - ・議会との連絡役として上院・下院、各2名をそれぞれが指名する。
 - ・リーダーシップ会議を支援する。
- 行動方針の作成－流域内事業計画等との統合
 - ・ピュージェット湾パートナーシップは、既存の流域事業計画を一部ベースにして行動指針を作成する。
 - ・事業間で紛争がある場合、エコシステム調整委員会は調停するため関係機関の管理者を招集する。
- 科学委員会の設置及び構成メンバー
 - ・科学委員会は9名で構成され、リーダーシップ会議によって任命される。
- 科学委員会の義務
 - ・科学委員会はリーダーシップ会議、エコシステム調整委員会、事務局を支援する。
- 科学委員会の戦略的科学プログラム
 - ・ピュージェット湾の評価、モニタリング・プログラムの継続・発展、データ管理に関する提案などを記す。
 - ・2年間の科学活動計画を作成する。
- 行動方針の目標及び目的
 - ・行動方針は2020年までに、「生態系の変化が脅かされない健康なピュージェット湾によって支えられた健康な人々」などの目標を達成すべく努める。
 - ・行動方針は、「既存の生息地を保護してさらなる損失を防ぐ」などの目的を達成するように作成・実行される。
- 行動方針の作成
 - ・リーダーシップ会議は、上に掲げた目標・目的を達成するため、科学に基づいた行動方針を作成する。

- ・リーダーシップ会議は、2008年12月1日までに行動方針を定める。その後、必要により改訂するものとする。
- ・実行戦略は順応的管理によって2年ごとに改訂する。

以上、ピュージェット湾パートナーシップの組織概要は法律によって定められている。なお、事務局スタッフは35名程度で、州政府の予算（2007-09：2年間）は23,800万ドルである。

.2007年5月に設置されて以来、ピュージェット湾パートナーシップは、行動方針の策定に取り組んできたが、2008年12月1日に策定することができた。

4. ピュージェット湾行動方針

行動方針は、ピュージェット湾の管理のための新しいアプローチを示すものであり、エコシステム・アプローチを採用している。科学的評価に基づいて優先して取り組むべきことを定め、ピュージェット湾を保護・回復するための行動をとりまとめ、協働のための基盤としている。

約200ページの文書には、ピュージェット湾の目指すべき姿及び現在の状況、ピュージェット湾を2020年までに健康なものにするための活動、当面取り組むべき活動についての考え方や活動の種類とともに、財務戦略が記載されている。

行動方針を実施するためには、2009-2011年の2年間で約60,100万ドルが必要と見込まれているが、そのうち19,900万ドルが不足するので、連邦政府から競争的資金などを獲得する予定にしている。また、長期的な取組みとして、既存の基盤整備財源の捩入れ、各レベルの政府における新しい財源の確保、そして税金・使用料及び生態系サービス市場の創設を検討している。

5. おわりに

チェサピーク湾が複数州にまたがっているのに対し、ピュージェット湾及びその流域はワシントン州1州である。このため州政府が主導して環境ガバナンスを構築していると思われる。但し、ピュージェット湾は、米国環境保護庁の河口域プログラムの採択を受けているし、米国海洋大気庁の国立河口研究保全組織(NERRS)の指定地域が含まれる等もあり、連邦政府の参画は大きい。

ワシントン州政府が中心であるが、海続きのカナダ側とは、カナダ政府環境省と連携して2年に1度、科学・政策等に関する会議を開催しており、生態系に合わせた取組みを展開している。

ピュージェット湾パートナーシップの組織構造も、チェサピーク湾プログラムと同様、政治的な意思決定組織、関係機関の調整組織に加えて科学的な検討機関がしっかりと位置づけられている。

(2009年3月 国際エメックスセンター・神田泰宏)

<参考>

- ・ワシントン州エコロジー省 <http://www.ecy.wa.gov/>
- ・ピュージェット湾パートナーシップ <http://www.psp.wa.gov/>